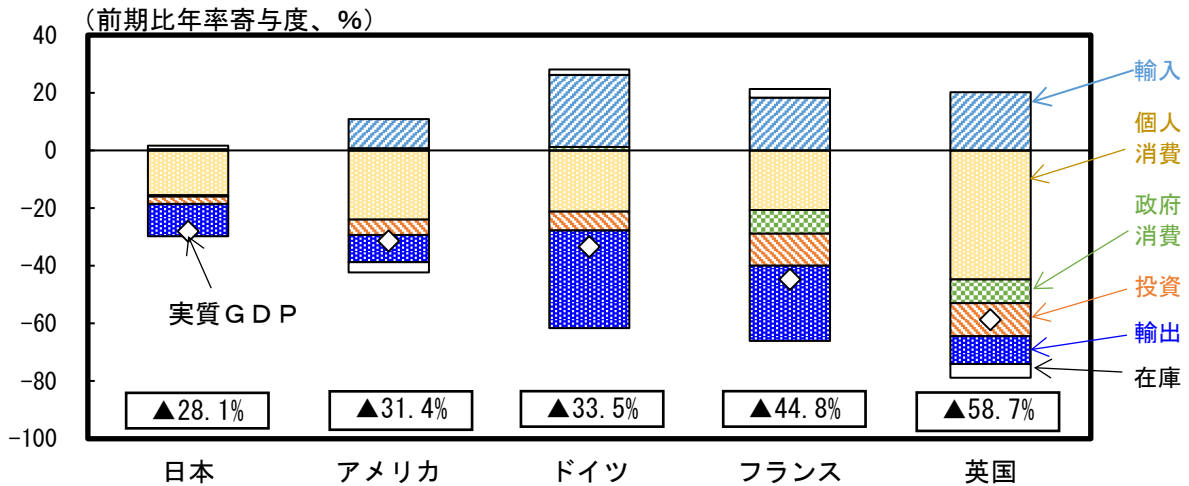


## 感染症拡大のタイミングと輸入の動向

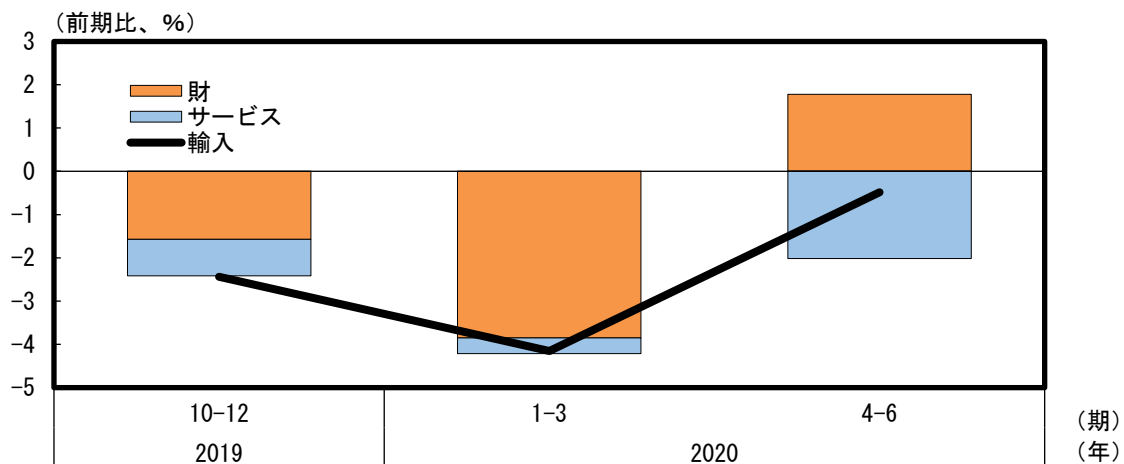
1. 2020年4-6月期における我が国の実質GDPは、4、5月の緊急事態宣言により経済活動を意図的に抑制したことから、前期比▲7.9%、年率換算で同▲28.1%と、比較可能な1980年以降最大の下落となった(図1)。このうち、輸入を取り出してみると、主要先進国が大幅な減少(GDP上ではプラスに寄与)となるなかで、我が国は前期比▲0.5%と小幅な減少に止まった。これは、感染症により海外渡航などを含むサービスが減少に寄与した一方、財がプラスとなったことによる(図2)。本稿では、2020年4-6月期における財輸入の増加の背景について、他国、とりわけアメリカ、ドイツとの比較を通じて確認する。
2. まず、3か国の共通点として、輸入元は近隣国を中心としている傾向が挙げられる(図3)。アメリカはカナダやメキシコを中心とした北・中南米、ドイツはEUからの輸入割合が高い。このような輸入構造の下で、3月中旬以降、欧米においては、ロックダウン等で自国および輸入相手国の経済活動が同時並行で抑制された(表1、図4・5)。経済活動の抑制は、輸入の供給制約と内需の減少を同時に招き、アメリカとドイツでは輸入が大きく減少し、同時にGDPもマイナスとなった。では、4、5月の緊急事態宣言で経済活動が抑制されたはずの我が国の輸入は、なぜ減少しなかったのか。
3. その背景の一つとして、我が国の主要貿易相手国が中国であることが挙げられる。表1にあるとおり、中国は、感染症の流行が世界的にも早く、1月後半にはロックダウンが開始されていた。また、回復の時期も早く、3月中旬には殆どの地域で経済活動が再開されていた。その結果、中国の生産は、経済活動が最も制限されていた2月を底とし、3月以降に大きく持ち直すこととなった(図6)。中国の生産動向と軌を一にして、我が国における中国からの輸入は、2月に大幅に減少し、3、4月に反動で増加した(図7・8)。この動きを四半期でみると、我が国の輸入は、1-3月期全体では前期比で減少したものの、3月が反動で大幅に増加し(プラスのゲタ)、4月も引き続き増加した影響で、4-6月期はプラスとなった。なお、ドイツの対中国輸入シェア(11.4%)が我が国(23.5%)の半分以下である一方、アメリカの対中国輸入のシェアは、18.1%と我が国を5%ポイント下回る程度である。しかし、米中貿易摩擦により、中国からの輸入が感染症拡大前から減少傾向にあったこともあり、前月比でみたアメリカの2-3月の輸入への減少寄与は、我が国と比べ小幅となっている。
4. 財別にみると、中国からの輸入シェアが大きい一般機械(パソコン)や電気機器(スマートフォン)、繊維製品(衣類)等が2月に落ち込み、3、4月に戻っている(図9)。加えて、感染症を背景とした特需により、繊維製品(マスク)や化学製品(消毒液)の輸入増加も4月にみられる。ただし、こうした特需はその後一巡し、5、6月には減少へと転じている。
5. 以上を踏まえると、中国の早期ロックダウン及びその解除の影響を強く受けたこともあって、4-6月期における我が国の輸入は、他国とは異なる動きとなった。欧米では内需に合わせて輸入も減少した一方で、我が国では、サプライチェーン(中国)の回復に伴う輸入増により、内需減少に伴う輸入減少が相殺されたことがうかがえる。その結果、我が国の4-6月の実質GDPは、実勢よりも大きく減少したと言える。
6. なお、財務省「貿易統計」を基に作成した季節調整値によれば、7-9月期の数量指数は、前期比▲6.2%となっている。この点、7-9月期は、輸入が減少することで、同期の実質GDPを押し上げる要因になると見込まれる。

図1. 主要国の実質GDP成長率の比較 (2020年4-6月期)



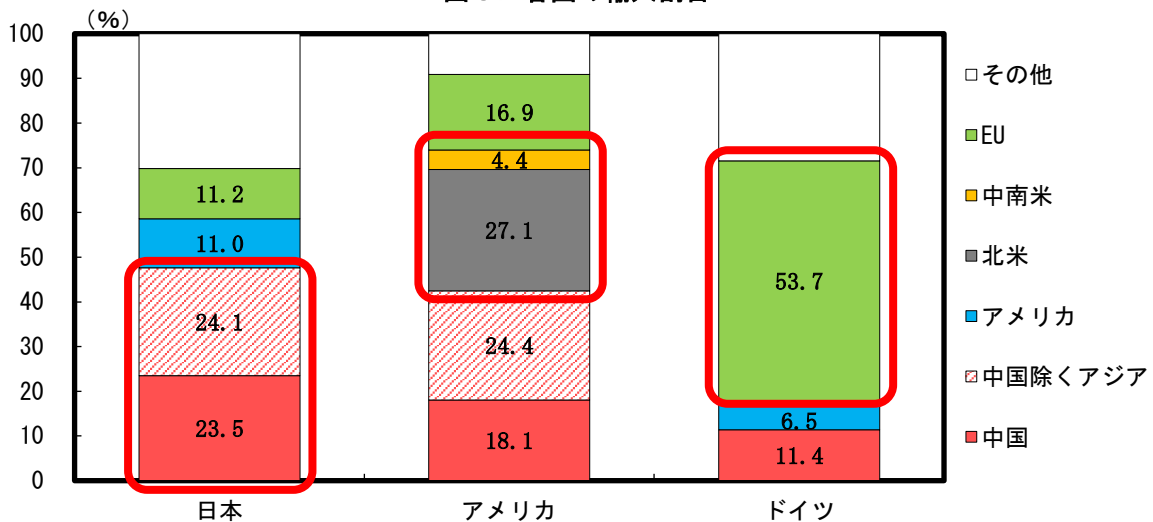
(備考) 1. 内閣府「国民経済計算」、アメリカ商務省、ドイツ連邦統計局、フランス国立統計経済研究所、英国統計局により作成。季節調整値。枠線内の数値は実質GDP。  
 2. 上記「投資」には、住宅投資、設備投資、公共投資が含まれる。

図2. 我が国の実質GDP輸入内訳



(備考) 1. 内閣府「国民経済計算」、により作成。季節調整値。

図3. 各国の輸入割合



(備考) 1. 各国貿易統計により作成。2019年計データ。なお、メキシコは北米に分類。  
 2. 枠線内の数値は、各国の地域別輸入金額シェア。

表 1. 各国におけるロックダウン等活動制限の期間

	1月 23	2月 1 15	3月 1 15	4月 1 15	5月 1 15
日本				4/7~5/25 緊急事態宣言	
アメリカ			3/12 ニューヨーク州でロックダウン		5/15 ニューヨーク州で解除
ドイツ			3/10 順次ロックダウン開始	4/20 小売店の休業解除	
中国	1/23 武漢市でロックダウン	2/4 北京市や四川省で順次操業再開	2/27 物流企業の稼働率が6割を超える 3/21 武漢市で順次操業再開		
メキシコ				3/30 非常事態宣言	5/13 経済活動の順次再開
カナダ				3/24 オンタリオ州で職場閉鎖命令	5/4 オンタリオ州で順次制限解除
イタリア			3/9 全土でロックダウン開始		5/4 段階的な解除開始
フランス				3/17 全土でロックダウン開始	5/11 段階的な解除開始

図 4. 主要国の生産動向

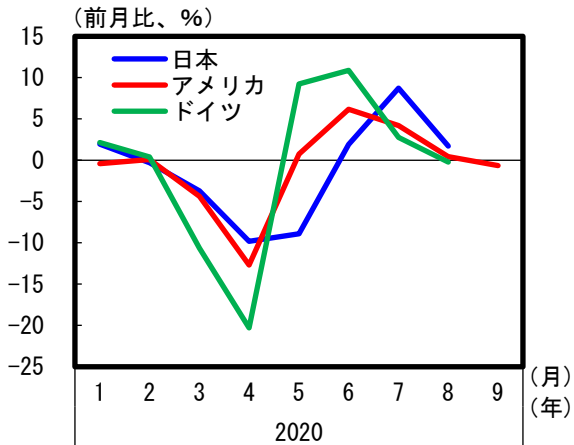
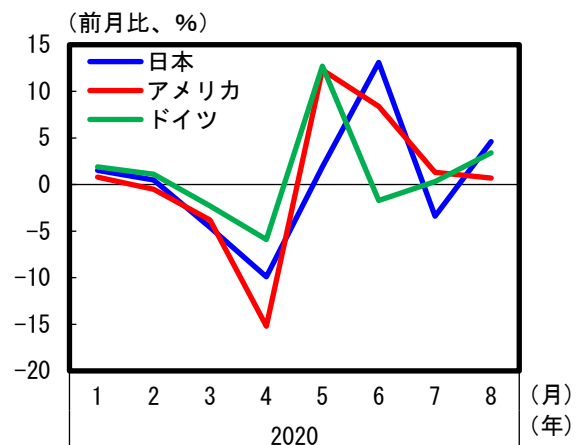


図 5. 主要国の消費動向



(備考) 1. 図 4 について、経済産業省「鉱工業指数」、FRB、ドイツ連邦統計局により作成。季節調整値。  
2. 図 5 について、経済産業省「商業動態統計」、アメリカ商務省、ドイツ連邦統計局により作成。季節調整値。

図 6. 中国の生産動向

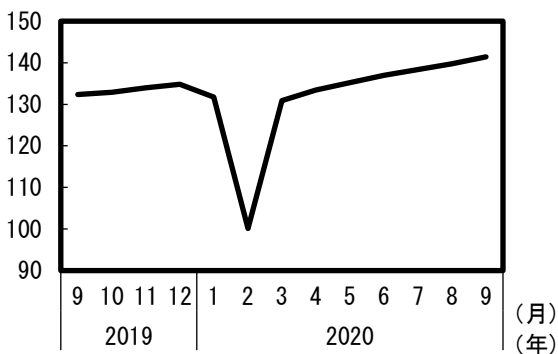
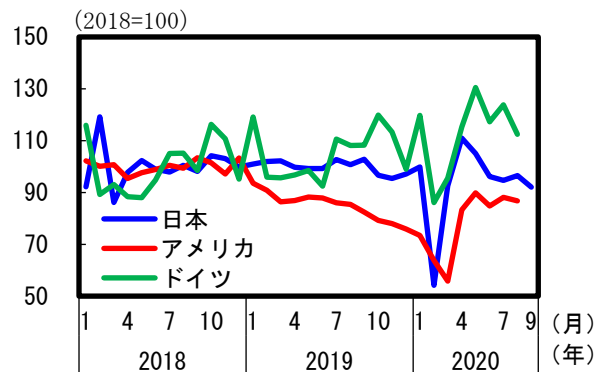
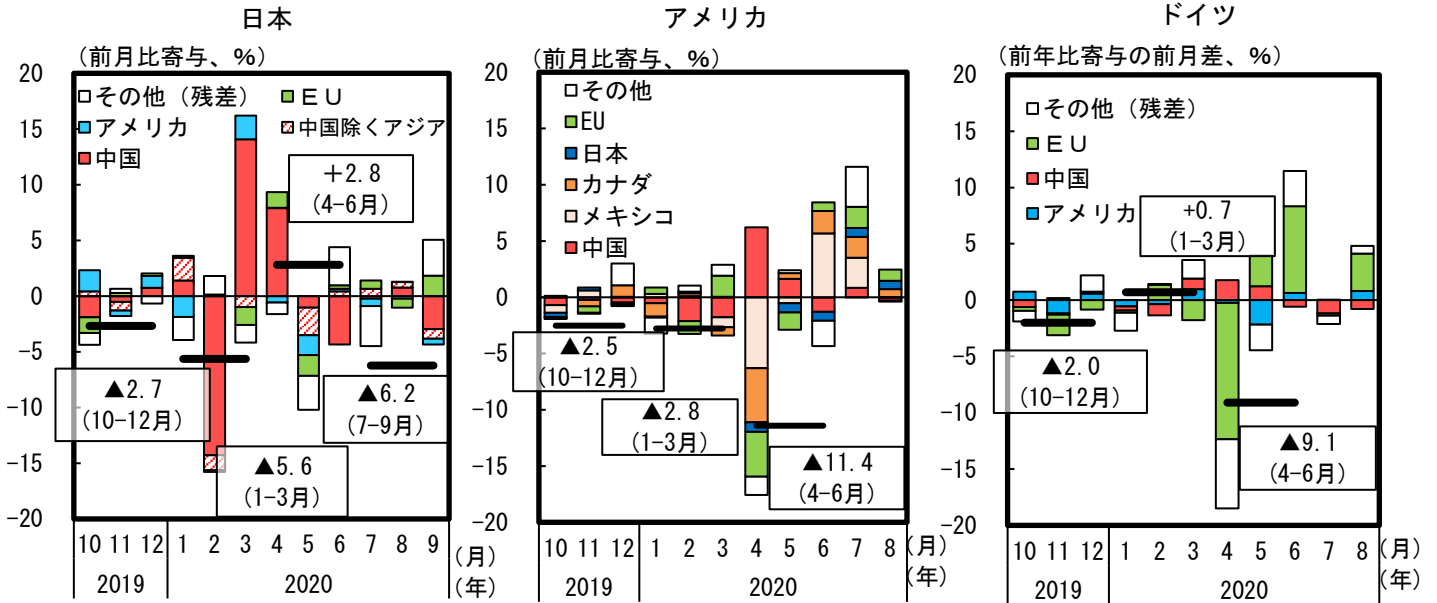


図 7. 中国からの輸入動向



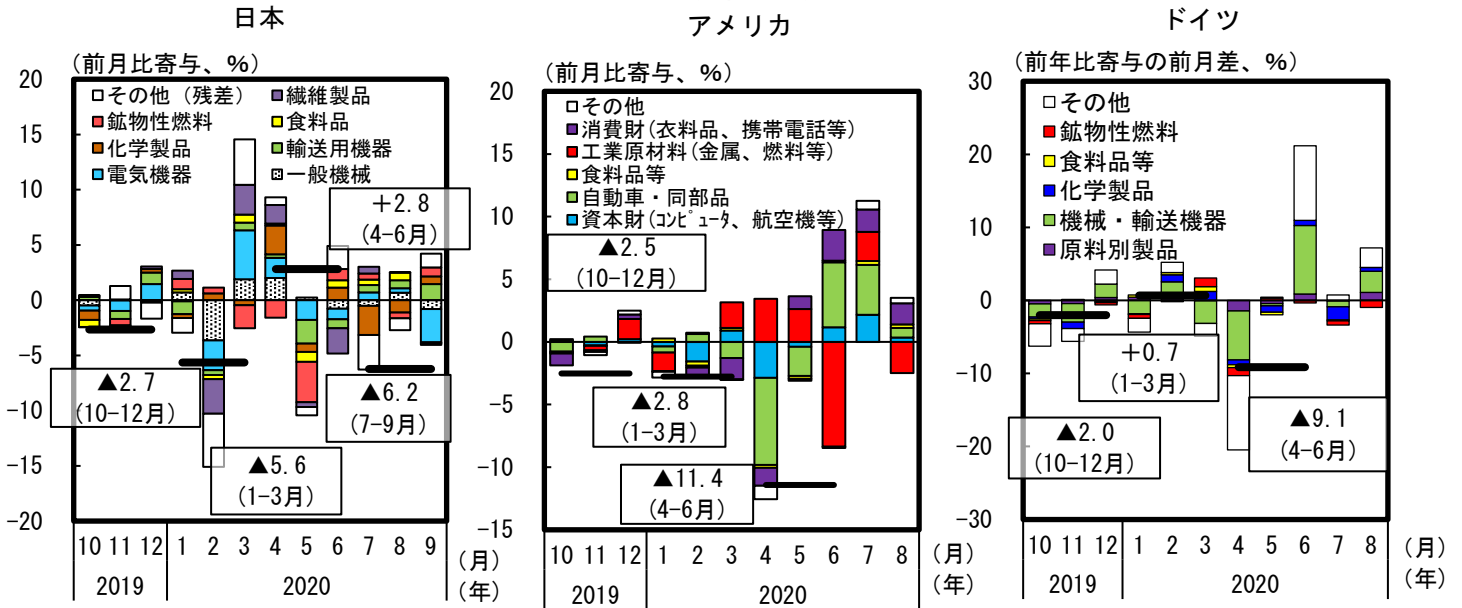
(備考) 1. 図 6 について、中国国家統計局により作成。季節調整済みの指数等が公表されていないため、2015 年 1 月を 100 とし、公表値である季節調整済前月比を乗ずることで算出。  
2. 図 7 について、財務省「貿易統計」、アメリカ商務省、ドイツ連邦銀行により作成。日本は、数量指数の内閣府季節調整値、アメリカは、実質値の季節調整値、ドイツは、実質値の未季節調整値。

図8. 各国財輸入の地域別内訳



(備考) 1. 財務省「貿易統計」、アメリカ商務省、ドイツ連邦銀行により作成。  
 2. 日本は、数量指数の内閣府季節調整値、アメリカは、実質値の季節調整値、ドイツは、実質値の未季節調整値。

図9. 各国財輸入の財別内訳



(備考) 1. 財務省「貿易統計」、アメリカ商務省、ドイツ連邦銀行により作成。  
 2. 日本は、数量指数の内閣府季節調整値、アメリカは、実質値の季節調整値、ドイツは、実質値の未季節調整値。

担当：内閣府 政策統括官（経済財政分析担当）付参事官（総括担当）付  
 山中 省吾（直通 03-6257-1565）

本レポートの内容や意見は執筆者個人のものであり、必ずしも内閣府の見解を示すものではない。